



安全衛生

あれこれ

34

増田労働衛生コンサルタント事務所
所長 増田稔久

全国労働衛生週間の機会に「ヘルスリテラシー」の向上を！

最近「リテラシー」という言葉をよく聞きます。安全衛生の分野では「ヘルスリテラシー」です。これを公で見かけたのは、エイジフレンドリーガイドライン（令和2年3月）でした。同ガイドラインによると、その意味は「青年、壮年期

から健康に関する情報に関心を持ち、健康や医療に関する情報を入手、理解、評価、活用できる能力」とのことです。「ヘルスリテラシーの向上に努める」とされています。テレビ、新聞、WEB等では健康情報が溢れています。折角の情報も

関心がなければ活かされません。全国労働衛生週間の機会に自身の、また企業、職場、家族

のヘルスリテラシーのレベルを点検されてはいかがでしょうか。ところで、安全の分野で「セーフティリー

テラシー」は見かけませんが、安全と衛生は共にあるので、近く「安全衛生リテラシー点検表」を作成しようと考えています。

さて、衛生情報を2題紹介します。一つ目はILOの昨年9月の記事で「日本の2016年（平成28年）における業務関連の死亡者数は38000人に上る」です。厚労省の資料から労働災害の死亡者数は、年間約1000人（過労死等を含む）と推計されるので、随分と隔たりがあり驚いています。これはILOが労働災害を「業務関連死」として独自の基準で幅広く捉えているからだと思われる

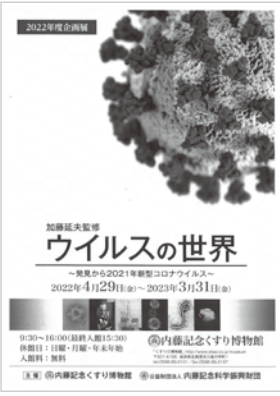
よう。詳しくは「ILO/WHO共同報告…仕事に關連した原因で亡くなる人は毎年約200万人」（2021/09/17）で検索すると、ILO駐日事務所による抄訳等を見ることが出来ます。

二つ目は博物館の紹介です。最近、久しぶりに各務原市にある「内藤記念くすり博物館」を訪ねました。同館はエーザイ（株）川島工園内に設けられ、展示館と薬用植物園等からなる医薬と健康に関する施設で、無料で一般公開されています。実は、植物園を目当てに出掛けたのですが、併せ見た展示館が大変見応えがあり、時間が足らず再訪問した程です。

特に現在「ウイルスの世界」との企画展（別掲）が開催されています。新型コロナウイルス感染症との戦いが続く中、「敵」を知ることが重要なことです。同展での「ウイルスという生物と無生物の間の存在の不思議さ」についての解説も面白く、生物について空想にふけりました。

常設展では、マスクのことを「マスク」といった時代の現物展示、「養生訓」（貝原益軒著1713年）「養生七不可」（杉田玄白著1801年）「長命衛生論」（本井子承著1813年）等の古書が展示され、健康を保つための秘訣がやさしく紹介されています。内容の一部は、「腹8分目の薬しみを知る、薬をせず適度に運動を」などで、その秘訣は今も通用する健康法です。実践された著者の先生方は長生きされたよう

皆さんも同館を訪ねてみませんか？ きつと職場の健康づくりに役立つヒントが見つかるでしょう。薬用植物園は10月には「ウコン・トリカブト（少々怖い）」などの花を楽しむことも出来ます。なお、お出かけの際は同館のホームページで開館情報を確認してください。



（別掲）内藤記念くすり博物館「ウイルスの世界」

野で「セーフティリー